

公共芸術についての研究  
 一府中市における彫刻設置事業を対象として一

21218009 井上 智晶  
 指導者 葉袋 奈美子 准教授

彫刻 公共芸術 アンケート調査  
 府中市 自治体 竹田直樹

**1 研究の背景と目的**

現在、街には彫刻が当たり前のように置かれている。芸術作品としての彫刻を街に設置する動きは 1961 年に宇部市から始まった<sup>注1)</sup>。その後、手法を変えながらも様々な都市で彫刻設置事業は行われたが、多くの都市で明確な設置基準のないまま事業が進められたため、「彫刻公害」という言葉も生まれてくるようになった。

本研究では、府中市で行ったアンケート調査を用い、市民がどのような公共芸術を望んでいるのかを明らかにすることを目的とする。

**2 府中市における「彫刻のあるまちづくり事業」**

**3-1 府中市が行った事業**

府中市の彫刻設置事業に詳しい、元府中市美術館副館長である、山村仁志氏にヒアリングを行った。

平成 4 年から 13 年に「彫刻のあるまちづくり事業」が行われた。竹田直樹氏の研究に基づいて分類すると、選定方式としてはほとんどの作品が「既存作品購入型」<sup>注2)</sup>の方式で行われていが、5 体の作品はコミッションワーク、つまり「オーダーメイド型」<sup>注3)</sup>の設置で行われた。当初の予定としてはおおよそ 20 体以上を想定していたが、予算面の問題もあり結果 17 体の彫刻設置で「彫刻のあるまちづくり事業」は終了した。

その後、「パブリックアートのあるまちづくり事業」に事業が変更され、今ある作品をどのように保存し見せていくかという事業となった。また、事業で設置された作品以外にも彫刻案内で紹介されている作品が 37 体あるが、これは民間で設置された彫刻であり、前述の彫刻と区別して「一般作品」と呼ばれている。

**3-2 調査方法**

市民の彫刻に対する意識を明らかにすることを目的としたアンケートを街頭調査法と留置調査法を併用し行った。調査対象は東京都府中市であり、対象彫刻は「府中市の彫刻案内 彫刻のあるまち ふちゅう」(府中市美術館発行)に記載のある彫刻、全 54 作品のうち、府中駅付近を中心として半径 1km 以内の、22 体の彫刻作品である。

調査内容は、回答者属性、見たことがない彫刻はあるか、また、その中で待ち合わせや目印に使用したことのある彫刻はあるか、府中市に設置されている彫刻をじっ

くりと見たことがあるか、街に設置するのに適当だと感じる彫刻はどのような彫刻か(複数回答)、どのようなモチーフの彫刻が公共空間設置にふさわしいと感じるか(複数回答)、自由回答、とした。

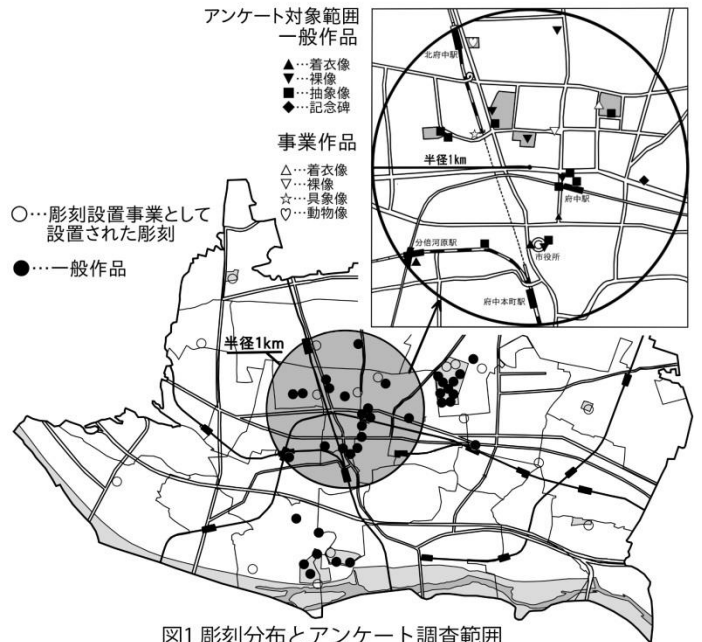


図1 彫刻分布とアンケート調査範囲

**4 府中市民における彫刻作品への認識**

**4-1 彫刻形状と設置場所の関係**

22 体中、4 体しか彫刻設置事業として設置されている彫刻はないが、そのうち 3 体が上位に入っている。このことから、彫刻設置事業が選定した設置場所は彫刻設置に適切な場所だったと言えることができる。また、車上から目視不可能な彫刻の認知度は低い傾向にある。

そして、形状としては縦長のものほど認知度が低い傾向にあると考えられる。特に縦長の形状であるものの中でも、樹木と共に設置されているものがより認知度が低い。理由としては、樹木の縦方向と、彫刻の縦方向の形状が似てしまっているため、並木と同化して見えているためだと考えることができる。これは横方向に延びるフォルムの彫刻の認知度が高いことと、周辺に何も無い縦方向に延びるフォルムの彫刻の認知度は高いことから推測できる。

また、駅前や郵便局に近い街路に設置されている作品は

目印などに使用する人も見られ、人数自体は少ないものの、ランドマーク化される彫刻も見られた。

#### 4-2 彫刻とサイトスペシフィシティ

街に設置するのに適当だと感じる彫刻はどのような彫刻ですか、という質問に対して表2のような結果が算出された。最も多かったのは「街に縁のある人物などの彫刻」であり、次いで「記念碑」、「街のためだけに制作された彫刻(その街にしかない街特有の彫刻)」という結果となった。この3つの項目は、明確なサイトスペシフィシティが存在しており、特に前者2つはサイトスペシフィシティが表出されたものであり、より街とのつながりは強い。このことから、市民は街に設置されている彫刻に対して、設置理由を求めているということがわかる。特にこの結果は府中市の小学校に通学していた人に顕著に表れ、小学校教育が何らかの形で彫刻のサイトスペシフィシティに関係していることがわかった。また、自由記述では可愛いもの、明るい色の彫刻がいい、という意見も見られ、芸術性や平和友愛といったメッセージ性のあるものよりも彫刻には癒しを求める傾向にあり、街の誇りになるようなものもいいという、彫刻にアイデンティティを求める面もあるということが判明した。

#### 4-3 彫刻のモチーフ

公共空間に設置するのに適当だと感じるモチーフはどれですか、という問いに対しての結果は表3のようになった。もっとも多かったのは「抽象像」で、次いで「着衣像」、「動物像」という結果となった。一方、府中市における人物彫刻26体のうち9体は裸像であるが、裸像を適切だと答えた人は比較的美術に興味のある人の中の3人にとどまった。この日本全土の傾向として裸像が多いが、これは住民に求められているモチーフではなかったと判明した。また、最も選ばれた「抽象像」は都市との親和性が高い<sup>注4)</sup>ためであると推察することができる。その場に合う彫刻がいいという自由記述も存在し、市民は街に馴染む彫刻を求めていると言うことができる。

モチーフ	人数
着衣像	37人
裸像	3人
動物像	21人
抽象像	43人
具象像	11人
その他	5人
未回答	8人
合計人数	128人

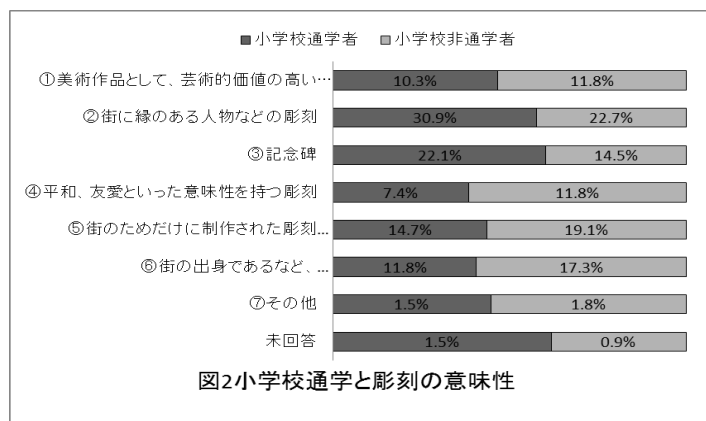
#### 5 まとめ

府中市における彫刻の認知度は高く、またランドマーク化されているなど、彫刻が街に溶け込んでいる傾向にあるということが出来る。一方、作品が表現している内容や持ち合わせている意味やモチーフに関しては市民が求めるものと、実際設置されている彫刻に隔たりがあることがわかった。市民は公共彫刻には、芸術的価値より

も街との関係性を望んでいる傾向にあり、彫刻に街のアイデンティティを求めている。また、モチーフには街との親和性や癒し、面白さを求める傾向にあるということが分かった。

彫刻	認知度	モチーフ	設置場所	車上から	分類	形状
9	89%	抽象像	駅前	目視可	一般作品	縦長型
12	88%	裸像(子供)	街路	目視可	オーダーメイド	横長型
10	77%	着衣像	公園	目視可	既成作品	横長型
20	76%	具象像	街路	目視可	既成作品	横長型
13	75%	着衣像(歴史系)	駅前街路	目視可	一般作品	立方体型
16	75%	抽象像	公園	目視可	一般作品	横長縦長型
8	72%	抽象像	公園	目視可	一般作品	縦長型
11	72%	着衣像	市役所	目視可	一般作品	縦長型
21	71%	裸像	市役所	目視不可	一般作品	縦長型
2	70%	裸像(子供)	公園	目視可	一般作品	横長型
22	70%	記念碑	街路	目視可	一般作品	縦長型
5	69%	抽象像	球場	目視可	一般作品	縦長型
7	68%	抽象像	街路	目視可	一般作品	縦長型
17	68%	着衣像(歴史系)	街路	目視可	一般作品	縦長型
1	67%	裸像	屋内	目視不可	一般作品	横長縦長型
4	66%	動物像	公園	目視不可	既成作品	縦長型
18	62%	抽象像	公園	目視可	一般作品	縦長型
6	61%	裸像	公園	目視不可	一般作品	縦長型
19	59%	抽象像	市役所	目視可	一般作品	立方体型
3	58%	裸像	球場	目視不可	一般作品	縦長型
15	57%	抽象像	街路	目視可	一般作品	縦長型
14	54%	抽象像	緑道	目視不可	一般作品	縦長型

項目	人数
①美術作品として、芸術的価値の高い彫刻	23人
②街に縁のある人物などの彫刻	59人
③記念碑	41人
④平和、友愛といった意味性を持つ彫刻	28人
⑤街のためだけに制作された彫刻(その街にしかない街特有の彫刻)	35人
⑥街の出身であるなど、街に何かしらの関係がある作者による彫刻	31人
⑦その他	5人
未回答	3人
総数	225人



#### 註記

- 注1) 竹田直樹:日本の彫刻設置事業モニュメントとパブリックアート(1997) 公人の友社出版
- 注2) 竹田直樹、八木健太郎:野外彫刻展型の彫刻設置事業の変遷(2004) 環境芸術環境芸術学会論文集(4)
- 注3) 竹田直樹、八木健太郎:オーダーメイド型の彫刻設置事業の発生(2008) 環境芸術環境芸術学会論文集(7)
- 注4) M・A・ロビネット著、千葉成夫訳:屋外彫刻 [オブジェと環境](1985)鹿島出版会

#### 参考文献

- 1) 竹田直樹、八木健太郎「既製作品購入型彫刻設置事業の発生」(2009) 環境芸術学会論文集(8)
- 2) 竹田直樹、八木健太郎:彫刻シンポジウムによる彫刻設置事業の発生と変遷(2006) 環境芸術環境芸術学会論文集(5.6)